

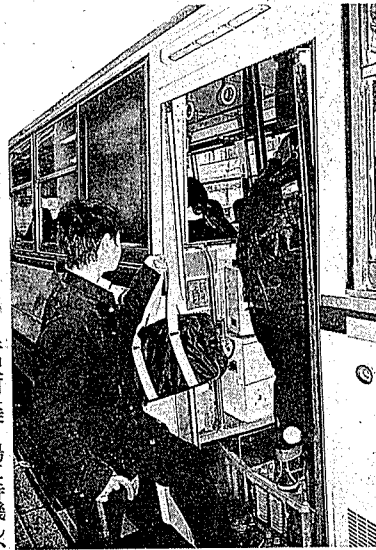
# 通学の足 運行継続

## 「乗って残そう」熱意実った

雨や雪の日の朝に限って1便だけ走り、羽水高生徒の貴重な通学手段となっている路線バス「レイニーバス」が、4月以降も運行されることになった。利用者の目標をわずかながらも下回ったため、1年限りで廃線となる恐れがあったが、着実に増加していることが継続の決め手となった。「乗って残そう」という生徒たちの切実な思いと、利用促進をサポートする学校とPTA、事業者のスクラムが実った。

## 羽水高校線 雨の日走る「レイニーバス」

レイニーバスは学校とPTA、生徒会のタイヤ充実の要望を受け、昨年4月に運行開始。その際「1便当たり20人」の目標を下回った場合、「事業者は次年度の運行を廃止することができる」との協定を結んでいた。6月末までの平均利用者数は14人、10月末の時点でも平均15人と伸び悩んだが、京福バスによるモバイルサイトでの運行情報サービスが徐々に浸透。レイニーバスを提案した原も、交通まちづくり課の職員が始発の「福



雨や雪の日の朝に限って1便だけ走る羽水高校線の「レイニーバス」福井市の「福井駅前乗り場」

## 生徒ら結束、利用増加

井駅前乗り場に待機し、案内や誘導を行った。今年1月には、県と学校が共同で制作した「レイニーバスが大ピンチです」とのチラシを全生徒に配布。学校のホームページにも掲載し、積極的な利用を呼び掛けた。こうした地道な取り組みの結果、今年1月末までの平均利用者数は17人、2月末の時点で18人まで増えた。目標の20人にはあと一歩届かなかったものの、天気予報が外れ、晴天時の運行となった日などを除くと23人にアップし、大台をクリアした。

金牧廣校長は3月16日、京福バス本社を訪れ、学校とPTA、生徒会の連名による運行継続を求める要望書を提出。4月以降の存続が決まった。海岸沿いの福井市菜崎から通い、レイニーバスをこれまで20〜30回は利用しているという1年生の北村拓真さん(15)は「このバスがなくなるもたらうことになり、親の負担が大きくなる。運行継続が決まって本当に良かった」とホッとした様子。金牧校長は「公共交通の積極的な利用は、生徒たちの自立心をほぐすだけでなく、地球温暖化防止にも貢献できる。みんな力を合わせ、これからも残していきたい」と話している。

羽水高での実績を踏まえ、新年度は小浜水産高でもレイニーバスの運行が予定されている。